



宇宙エレベーターロボット の作成



本事業の成果

昨年同様、本事業の課題としてSTEAM教育の指導できる人材の育成、育成の際実践できる場の提供、地域の児童生徒に対するワークショップの場の提供があげられる。人材の育成としては参加者を公募しある程度の人数が参加し指導者を育成することができた。参加者の反応としては、「教育実習では体験できない児童生徒への指導体験ができた」「授業づくりのヒントになる」「来年も同様な取り組みがあれば参加したい」「教員になった場合でも十分活かすことのできるスキル等身につけることができた」等の反応が多くあった。ワークショップに参加した児童生徒からは、「学校でのものづくりではできないので良かった」「ロボットプログラミングなど初めて体験できて楽しかった」「楽しく学べた」「学校ではできないことが時間をかけてできた」「大学生の人が優しく教えてくれてうれしかった」「科学技術について興味が高まった」「また、参加したい」などほとんどが肯定的な反応であった。学生が指導中心になった時でも同様な反応であり「やさしくわかりやく教えてもらえた」など指導に関しても教員と同等なほどスキルが身につけていると考えた。



リンク機構をもちいた 動くおもちゃづくり



月面探査ロボットの プログラミング



ロボットカーのラ イトトレース

おおいた地域連携プラットフォーム 令和7年度 フィールドワーク支援事業 実施報告書

地域連携によるSTEAM教育ワークショップと指導者の育成

大分大学教育学部 市原靖士



ホーバークラフト の作成

本取組の概要

前年度同様、学生とは日出、国東、大分市、別府市等に出向き地域での課題（STEAM教育に関する指導者不足と子どもたちに対してのワークショップがないといった点）について現場の声を聞き意見交流をはかった。特に、STEAM教育の細かいどんなニーズがあるか、指導者への要望等を聞き課題解決への一助とした。昨年度も参加した学生が数名おりその学生については、大学教員の支援なしの自立的なワークショップ講師をするための手立てを考えた。また、本年度初めて参加する学生による課題解決に向けた検討や活動としては、現地視察をした後、それらを反映した基本的な指導者としての知識技能について講義を行った。また、学生をグループに分けて課題解決についてディスカッションし意見交流をはかりながらより良い解決策について検討をおこなった。また、昨年の模擬指導の動画などをお手本として使用した後、模擬指導を学生にしてもらい動画等で撮影しどこが良いか、どこが悪いかなど振り返りをし、改善をはかった。ワークショップについては現時点で62回開催することができ学生には指導者として場を提供することができた。学生からは、実際に子どもたちに対峙して指導する体験は自身の指導スキルアップに大変寄与したとの意見が多くてた。地域の子どもたちにもSTEAM教育ワークショップで学ぶ場を提供できた。（日出児童館6回参加児童15名*6 90名（予定） 関崎海星館24回参加児童15名*24 180名（予定） O-Lab4回参加児童50名 豊後高田市 10名*2回 国東市 10名*2回 おおいたサイエンスフェスタ 10名*5回 津久見市 10名*2回 防府市もの